

満徳寺梅まつり

盆梅展

はやしかくりよう

梅香忌 ～中泉代官 林鶴梁を偲んでく

展示／江戸時代の雛人形（山田家）

大久保幸美一貫張り・金森よし子切り絵



令和二年二月十五日（土）

十六日（日）

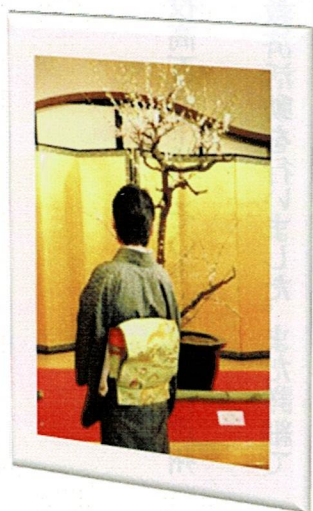
午前九時半～午後四時

十五日（土）の午前はJR東海さわやかウォーキングのコースになっている為、混雑が予想されます

《会場》 満徳寺会館

磐田市中泉一丁目四ノ七 TEL〇五三八一三三一三五五八

〔後援〕 磐田市観光協会 袋井市観光協会



《林鶴梁について》

満徳寺に幕末の代官三学（高い教養と学問のある名代官）の一人、林鶴梁の義母の墓があります。

嘉永六年（一八五三）六月二十七日、鶴梁は江戸城にて老中の松平忠固より中泉代官を任せられます。中泉代官は役高百五十俵、その支配地域は遠州から三河の約六万石近い幕府領を直轄し、代官所・陣屋は現在の磐田市の中泉にありました。

安政元年（一八五四）の安政東海地震や安政二年の大水害では、自らも被災しましたが、積極的に広範囲の領民への救済活動を行いました。また詳細で正確な新しい三遠地図を作りました。

安政四年に義母（先妻 久の母）が亡くなり、満徳寺にて葬儀が行われて立派な墓碑が建立されています。安政五年（一八五八）三月に、現在の山形県にあたる羽州柴橋代官へと任地替えの命が幕府より下つた為、義母の墓を永代供養として満徳寺に残しました。同年五月晦日、鶴梁は中泉を去るに当たって、その墓前に別れを告げたことが『林鶴梁日記』に記されています。

その後鶴梁は、文久三年に「和宮様下向の御馳走賄御用」役、翌年御納戸役に昇進、さらに新撰組の前身である新徴組の支配役になりました。この後、昌平坂学問所頭取を勤め明治維新を迎えます。

薩摩藩家老の小松帯刀より新政府への土官をすすめられますが断り、麻布谷町の屋敷に開いた漢学塾「端塾」で後進の指導にあたり余生を送りました。その中の門下生には犬養毅も名前を連ねています。

鶴梁は大変に梅花を好みました。『林鶴梁日記』の安政二年二月二十三日の記載には、

「陣屋梅花盛開二付、役所一統之もの共、住居江相招キ、酒遣候事」

とあるように、中泉代官所の梅の開花の盛んなるのを愛でて、多くの人を招いて楽しんでいた様子が伺えます。麻布谷町の江戸屋敷の庭には多くの梅を植えて「梅花深処」と命名しています。

維新後、外出の際は「何の面目あつて天日を仰がん」と深編笠を被っていました。

明治十一年（一八七八）一月十六日、「我、病の為に身を滅ぼさる。しかれども、武士たるもの婦女子の手に依り、枕にもたれて死すべきにあらず。」と云つて、床の上で大小両刀を握り、端座したまま七十三年の生涯を閉じました。